

JCR画像診断自己機能評価 第1号が認証されました！

2021年8月27日、JCR理事会にて「画像診断自己機能評価」第1号認証施設として那須赤十字病院が承認され、自己機能評価委員会より認定証と認証楯が贈呈されました。

JCR自己機能評価委員会



画像診断機能評価認定証

JCR画像診断自己機能評価認証第1号取得に際して

那須赤十字病院 水沼仁孝

私が専門医会の活動に携わるようになったのは遠藤啓吾会長第2期目の平成11年度(1999年)からで、主に医療保険制度を担当しました。当時、江原 茂先生、幡生寛人先生が、American College of Radiology : ACRとの定期会合を開始され、現在まで続いています。2009年11月30日の会合で「Self referral」と「Doctor's fee」に関する話題のとき、病院毎の認定制度 (Accreditation system) を提案されました。既に米国ではACRが画像診断モダリティ別の Accreditation system を作成、質の保証を行っており、2007年には韓国が画像診断の質に関する認定制度を大韓放射線学会と政府が一体となって開始していました (KIAMI)。

日本にはこのようなシステムがなく、JCRでモデルを作ろうということになりました。どの時点でも最高レベルと考えられる画像診断システムをJCRが示し、それを自己評価することにより、各施設の改善点が明らかになることを目的としました。従って満点には絶対ならないようになります。2012年7月1日付けで概念(6項目)、評価項目(12分野)などを公表 (JCRニュースNo.189)、その後、外部委員を入れ、最終的に設問数は144項目となりました。

JCR理事施設を対象に試験運用を行い、第三者による評価項目のチェックが行われた後、2019年、JRS総合修練機関・修練機関にこの評価システムへの登録を働きかけ、約100施設が参加しました。

今回、その上位施設の立ち入り審査第1号として当院が選ばれ、2020年9月25日、JCR理事長・副理事長、担当理事、第三者からなる審査団が来訪、実地審査が行われました。多少の差異は認めたもののその時点で2位の高得点との報告をうけ、本年8月、写真のような認定証が発行されました。

私が専門医資格を取得した1985年当時、放射線科医のほとんどは大学病院か、国立がんセンターなどの限られた施設にしかいませんでした。人の命を助けるために医師になったのだから実地臨床で放射線科医が人々のために役に立ち、且つ自分が生き甲斐をもって生きてゆくためにはどのようにしたら良いのか悩み、1986年秋、現代放射線医学の母国、米国の様々な施設を見て歩きました。そのとき、多田信平先生の恩師であるHarry Z. Mellins先生 (Brigham & Women's Hospital : 1921-2009) にお会いし、放射線科レジデント一人一人に一对一で教育に当たる姿を目の当たりにし、臨床放射線科医として生きてゆくこと、そして良い後進を育成することを私の人生目標としました。そのためには放射線科のシステムが最も発揮出来る地域規模にある病院での放射線科システムの構築、病院内環境の整備、地域医師会・医療機関との連携が必要であり、爾来、大田原の地でそれらに傾注してきました。今回の認証は今まで行ってきたことが正しかったことの証明と捉えています。



画像診断機能評価認証楯
※額は那須赤十字病院にて作成したものです。